

【 139 】

氏名	津 島 義 正
学位(専攻分野)	博 士(医 学)
学位授与番号	博 乙 第 2441 号
学位授与の日付	平成 4 年 6 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	血小板凝集能の個体差を考慮した至適抗血小板療法 — 心臓血管外科手術後遠隔期における検討 —
論文審査委員	教授 寺本 滋 教授 古元 嘉昭 教授 木村 郁郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

心臓血管外科手術後遠隔期279例と健常者20例の299例670件でADP0.5 μ M, ADP2 μ M, AA2mMを用いて血小板凝集能を測定し, 検討した。

健常者20例の最大凝集率から, ADP0.5 μ M18%以上を凝集能亢進, ADP2 μ M47%以下, AA2mM78%以下を凝集能低下とした。抗血小板剤非投与症例における最大凝集率は, 凝集能亢進から低下まで広範に分布していたが, 同一被検者における2回の検査値の再現性は高く, その個体差の存在が推定された。Ticlopidineの投与量別比較から, 各症例毎に投与量を決める必要性が推測された。血栓性合併症7例中4例が凝集能亢進を示し, 出血性合併症2例は凝集能低下を示した。

以上の結果より, 抗血栓療法においては血小板凝集能を測定し, その個体差を考慮した上で抗血小板療法の適応選択と抗血小板剤投与量の決定をすべきであると考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は心臓血管外科領域における抗凝血薬療法に関する診療的研究であるが, 手術後遠隔期における各種症例に対して血小板凝集能の個体差を考慮した至適抗血小板療法の重要性を検討したものであって価値ある業績であると認める。

よって, 本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。